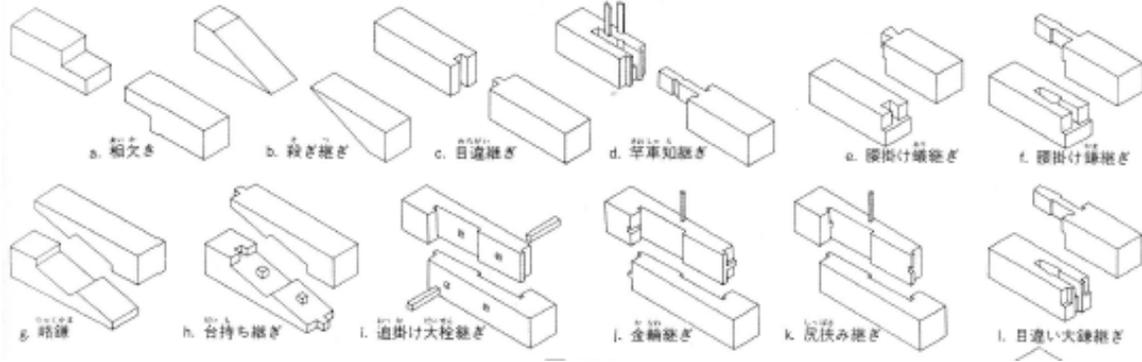
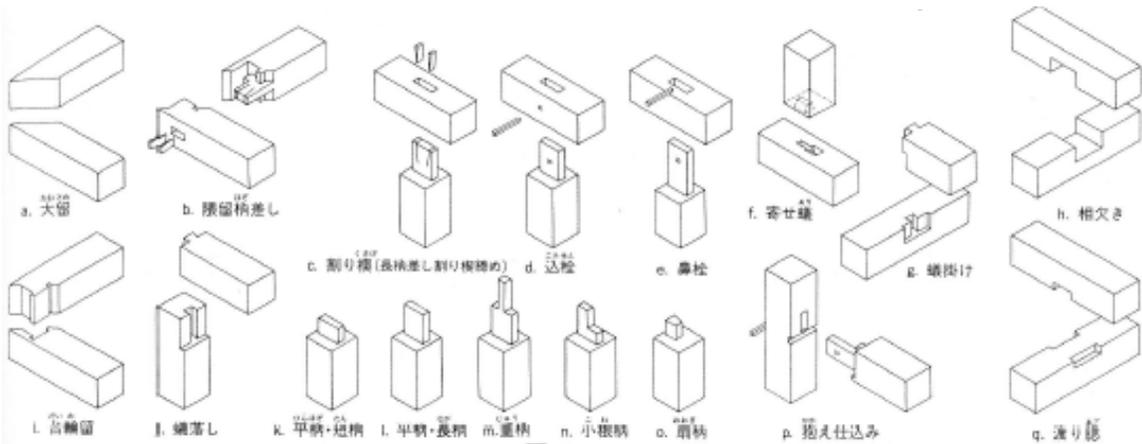


継手と仕口：伝統的な木造建築を支える接合技術



継手



仕口

継手：

部材をその材軸方向で継ぐ方法

仕口：

二つ以上の部材がある角度をもつて接合する方法

典拠：『建築大辞典』第二版

破損部材の取替や改修などにより建物の長い寿命を可能にする伝統的技術

腰掛目違い鎌継



追掛大栓、腰掛蟻などと共に今日の一般住宅で最もよく用いられる継手のひとつ。土台では蟻掛継と共によく用いられる。

内田祥哉『在来構法の研究：継手仕口について』住宅総合研究財団、1993、p.41

金輪継



東ノ男
加工
北側
2mm
2mm

令和四、六年度修補

現在では一般住宅建築にはほとんど用いられず、古建築の修理に際して、柱の根継等用いられている継手。

内田祥哉『在来構法の研究：継手仕口について』住宅総合研究財団、1993、pp.48-49

雇い鎌継ぎ



台持継ぎ



この台持継ぎは、他のおおよその略鎌系の継手と異なり、材軸方向の接触面を水平におく継手。

内田祥哉『在来構法の研究：継手仕口について』住宅総合研究財団、1993、pp.52-54



【古代鎌】 Ancient Gooseneck



【プレカット鎌】 Prefabricated Gooseneck



【中世鎌】 Medieval Gooseneck



【金物接合】 Composite Joint



【近世鎌】 Early Modern Gooseneck



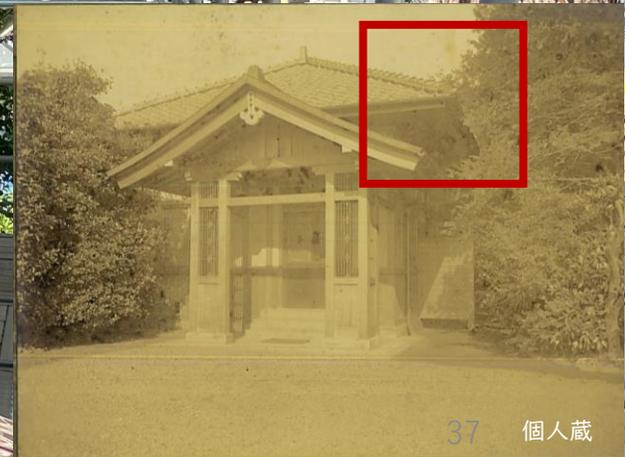
鎌継ぎの変遷

既存部材に合わせた束の仕口加工（光付け）

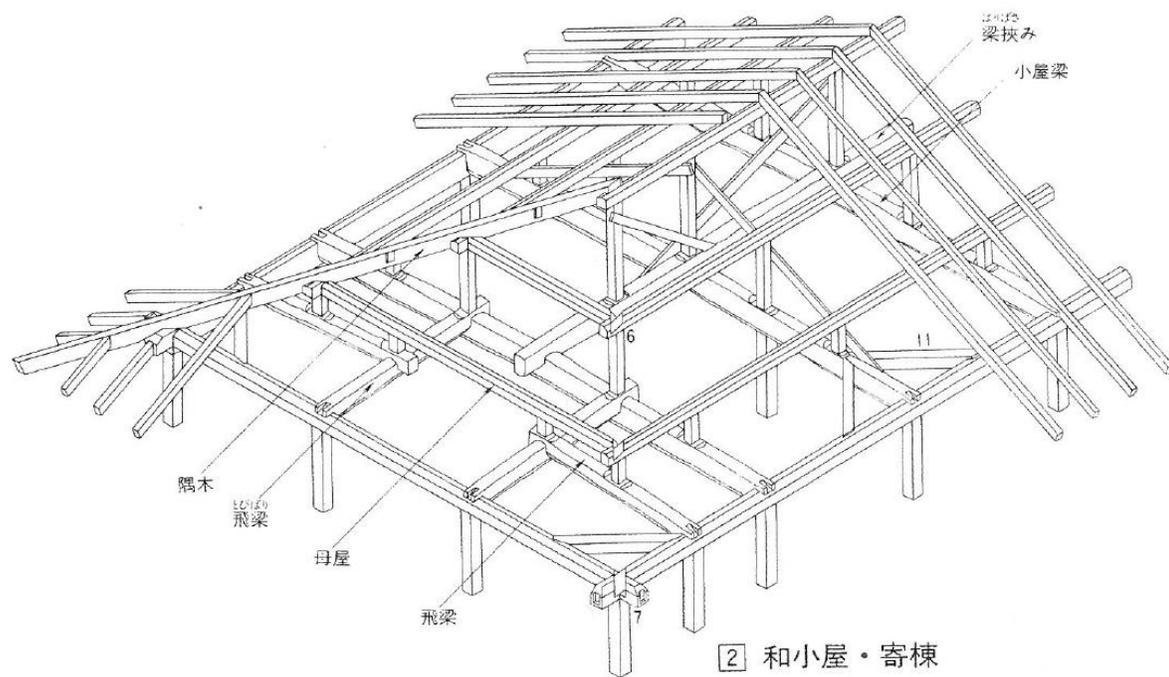


部材の形状に合わせて接合部を加工することを「光付け」と呼ぶ。写真は手仕事で製材された部材の形状に合わせて新設する束の木口を加工している。なお機械製材が普及したのは大正から昭和前期にかけてと考えられている。
中村琢巳『生き続ける民家：保存と再生の建築史』吉川弘文館、2022、p.168

玄関棟屋根プロポジション



一般的な和小屋軒先のディテール

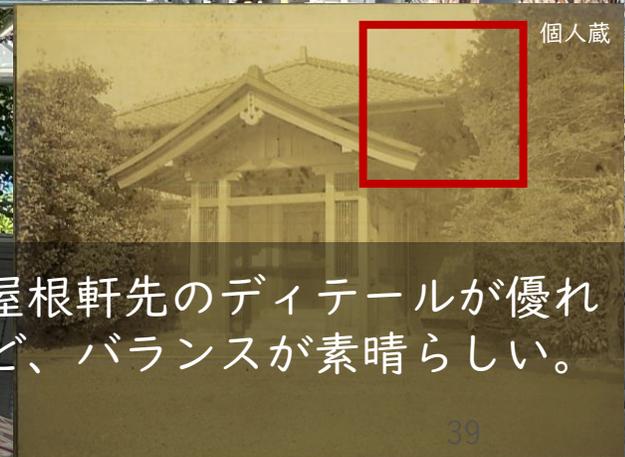


和小屋（寄棟）の小屋組



旧前田家本邸 和館

玄関棟屋根プロポジション



玄関棟屋根のプロポジションが建築家としてデザインされたものであるような印象。屋根軒先のディテールが優れている。木鼻隠しによる屋根端部の処理、軒先に張られた天井と換気口、屋根形状など、バランスが素晴らしい。

玄関部分屋根軒先



既存の部材に合わせながら、扇状に軒先の天井を新たな部材で取付けているのは大工さんの細かい丁寧な仕事。

軒裏天井の換気口



伊東忠太は建築家として日照や通風に配慮することが重要であると述べていることを考えると、換気口はその意図の反映であると考えることができるかもしれない。